

「ミャンマー／ビルマご遺骨帰国運動」 最終報告書

2012年12月 - 2015年3月31日

報告者：井本勝幸

- ミャンマー/ビルマご遺骨帰国運動 現地調査隊長
- TJEDF 「タイ日本教育開発財団」 所長
- UNFC 「ビルマ統一連邦評議会」 コンサルタント
- GMSAEDC 「メコン河流域圏農業・教育開発センター」 代表

北部チン州ご遺骨調査情報

【チカ地区】 (Chika Township)

1. 地名 Sing Gial (シン・ギアル)、Chika Township

北緯 (N) 23° 45, 344'

東経 (E) 093° 45, 344'

標高 1, 563 m

内容 激戦地のひとつであった。今回のご遺骨調査のためのベース・キャンプ地



2. Kan Sau Zang (カン・サウ・ザン村)、Chika Township

(N) 23° 48, 632'

(E) 093° 32, 755'

1, 204 m

英空軍の空爆により多数死亡。空爆の痕跡が多数存在している。墓や埋葬地は無いため特定は難しい。旧日本軍の地下通路が存在している。



3. T a n k 1 (崖下30mに日本軍の戦車、砲筒部分の残骸。地名が無いため、T a n k 1と呼称する。日本軍の95式軽戦車と思われる。)、Chika Township

(N) 23° 52, 005'

(E) 093° 33, 901'

1, 022m

英空軍の空爆により日本軍兵士数名が死亡。墓や埋葬地は無いため特定は難しい。



4. T a n k 2 (崖下20mに日本軍の戦車、胴体部分の残骸。地名が無いため、T a n k 2と呼称する。日本軍の97式中戦車と思われる。) Chika Township

(N) 23° 51, 740'

(E) 093° 34, 289'

1, 121m

英空軍の空爆により日本軍兵士数名が死亡。墓や埋葬地は無いため特定は難しい。



5. Sahawi camp (サハウイ・キャンプ) Chika Township : 日本軍の小規模な基地。

(N) 23° 48, 885'

(E) 093° 33, 562'

1, 335 m

墓や埋葬地は無いため特定は難しい。



6. Kaih Thial Camp (カイ・ティアル・キャンプ) Chika Township : 日本軍の野戦病院跡地。

(N) 23° 50, 743'

(E) 093° 35, 362'

1, 521 m

日本軍負傷兵が運び込まれた場所。戦時には毎日トラックで運び込まれていた。大半が助からずに死亡した。遺体は病院の裏側に埋葬（放置）されている。広さはおよそ100 m×30 m。少なくとも100人以上が眠っているとのこと。以前に、地元民が掘り起こし、金歯等を持ち去った。



7. Muar Zang Camp (ムアル・ザン・キャンプ=ムアル・ザン村) Chika Township : 日本軍の小規模な基地が村と並在していた。

(N) 23° 51, 271'

(E) 093° 34, 605'

1, 250m

英空軍の村側への空爆により、村民4名と日本軍兵士4名が死亡。その後、日本軍の陣地側も空爆を受け日本軍兵士約20名が全員死亡。その後、村は廃墟となり現在の Kan Sau Zang (カン・サウ・ザン) に移った。墓や埋葬地は無いため、特定は難しいが、陣地のあったおよそ30m四方の範囲まで特定。



8. Zo Mual (ゾ・ムアル) 、Chika Township、崖下5mに日本軍戦車の胴体部分の残骸。(Tank 3と呼称する。)

(N) 23° 44, 785'

(E) 093° 33, 653'

1, 476m

英空軍の空爆により日本軍兵士10名が死亡。遺体は戦車の周りに散乱されたまま放置。但し、戦車と比べると形が小さく装甲の厚さも薄いため英軍のブレンガンキャリアの可能性もある。



9. Tui Kiang village (トゥイ・キアン村)、Chika Township : 北チン州一帯の日本軍最大の基地があった村。日本軍がいた当時はは Sakawng (サカン) と呼ばれていた一帯。

(N) 23° 43, 454'

(E) 093° 35, 647'

1, 200m

イナダ大尉が総司令官。英軍の捕虜となったとのこと。



10. 同村の野戦病院跡地。Chika Township

(N) 23° 43, 726'

(E) 093° 36, 103'

1, 212m



11. 同病院敷地内の埋葬箇所。Chika Township

(N) 23° 43, 588'

(E) 093° 36, 005'

1, 203 m

沢沿いに墓が並んでいる。村民が一箇所を確認のため試掘しご遺骨が発見された。ご遺骨はそのまま保存されている。



12. 同病院跡地傍にある日本軍兵士の大きな埋葬地。Chika Township (念のため2ヶ所で経緯度を測定した。)

(N) 23° 43, 547'

(E) 093° 35, 863'

1, 207 m

(N) 23° 43, 589'

(E) 093° 35, 805'

1, 212 m

山の斜面。約5m定間隔に墓が作られている。高低約50m、長さ500m以上に及ぶ。1ヶ所の墓に複数の遺体が埋葬されている。村人の話によると、人によってまちまちではあるが、100人以上、多ければ1,000人ほどが埋葬されたと思うとのこと。村民が3ヶ所を確認のため試掘しご遺骨が発見された。ご遺骨はそのまま保存されている。



【注記】チカ地区（Chika Township）について

これ等の他に分かったことは、戦死後、戦友の手によって作られた個人墓が無数に散在している。そうした個人墓は、埋められた箇所に木の枝が差さされ、天辺に故人のヘルメットが掲げられていた。その後ヘルメットは持ち去られるなどしたため、特定は非常に困難。但し、村人が畑を耕したり、猟に出かけた際に、複数の故人墓やご遺骨、遺品（服など）に遭遇している。記憶は定かではないが、各村の協力で村民をあげての故人墓の捜索を行って頂くことになった。

検証調査最終日の夜に付近の村民が集合し、村落会議が開かれた。（井本が出席）ミャンマー・ビルマ各地で発見された銃剣や水筒などのご遺品は、骨董商品として売買されているが、ゾーミ族としては、日本のご遺族のお気持ちに鑑み、すべてのご遺品を日本に返還したい旨が議決された。何を、どこに、どのようにして持ち帰るかは課題となるが、ありがたいことである。収集が完了したら、寄贈（返還）式を行いたいとのこと。遺品は戦車、トラック、航空機の残骸、ヘルメット、水筒、銃剣、機関銃、弾丸、個人墓の中に見つかった衣服等。

ゾーミ族は、英国によってビルマが植民地化されてからも英国に抵抗を続け降伏した経緯がある。その為、当時の日本軍に協力した。日本軍は、野戦病院を住民に無料開放してくれた。窃盗や婦女暴行等は一切無かった。但し、スパイ容疑にあがった住民を弁明する機会も与えずに銃殺したイナダ大尉には閉口・失望した。インパール作戦前は、食料も自分たちで自給しており、住民からの略奪も無かった。しかし、作戦失敗後は食料が尽き、住民が飼っている家畜を殺して食していた。住民に対し、家畜を収めるよう強要した部隊もあった。日本軍は、空爆や地上戦で家を焼かれた住民と共に、バナナの葉や茎でつくったテントで暮らした。道路建設や修理作業に住民が借り出され、日本軍の兵士と共に作業に従事した。仕事が不出来の時はよく殴られた。日本軍同士でもよく殴っているのを見た。仕事賃として軍票が支払われたが、全く使えなかった。



【トン・ザン地区】 (Ton Zang township)

13. トン・ザン (Ton Zang) (元ゾーミ王族 (土侯) の家があった場所。)

北緯 (N) 23° 35, 525'

東経 (E) 093° 41, 593'

標高 799m

日本軍兵士達はインパール作戦失敗後この王家の傍で王家から支給された食料を貰って飢えを凌いでいたが、王様が英軍に捕まった後、飢えによって死亡。この地に埋葬された。推定60名から80名がここに来ていた。1980年頃に5名の日本人が入り、ご遺骨の幾つかを掘り出して持って行ったがまだ残っていると思われる。現在はミャンマー農業省が管轄する土地となっており、トウモロコシ畑となっている。



14. トン・ザン (Ton Zang)

(N) 23° 35, 090'

(E) 093° 41, 632'

800m

上記3に近接する場所。上記3同様の状況でこの地で約50名が餓死。遺体はそのまま (放置) になっている。現在は Ms.Siama Khan Niang の所有地で空き地となっている。



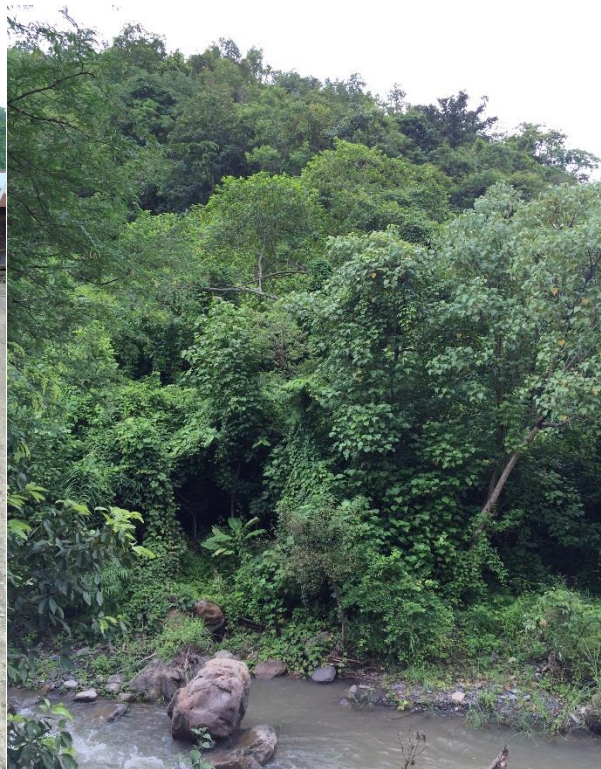
15. ヴィアル・チアン村 (Vial Cian village)

(N) 23° 32, 297'

(E) 093° 40, 164'

709m

テディム街道沿いの村。この村にある小山に日本軍の基地があった。ご遺骨があるかどうかは不明。



16. 同村

(N) 23° 32, 094'

(E) 093° 39, 970'

700m

上記3の村の傍。日本軍の軍用車両の修理場及び燃料の補給所があった。現在は家屋や水田になっている。



17. 同村

(N) 23° 32, 094'

(E) 093° 39, 970'

700m

上記3の村の傍。現在は水田になっている。英軍との交戦で死亡した兵士の骨が今でも水田から出土することがある。



18. Mual Kawi Village (ムアル・カイ村)、日本軍の基地があった。

(N) 23° 41, 685'

(E) 093° 38, 686'

1,091m

日本軍のものと思われる銃弾や弾薬箱、動物の骨が多数見つかった。ご遺骨があるかどうかは不明。



19. Mual Kawi Village (ムアル・カイ村)、日本軍の基地があった。

(N) 23° 39, 834'

(E) 093° 39, 016'

1,343m

日本軍のヘルメットが残されている。村人の話によると10名ほどの日本兵がこの地で亡くなったという。



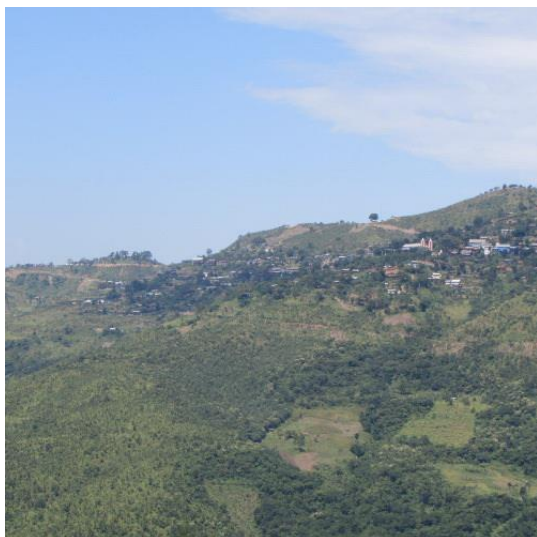
20. Tung Tuang village (トゥン・トゥワン村)、日本兵の墓。

(N) 23° 39, 814'

(E) 093° 39, 044'

1, 236 m

1名の日本兵の墓。(確実)また、付近の Ngei Sot Bawk には日本軍の陣地があった。激戦地であったためご遺骨が残されている可能性が高い。



【テディム地区】 (Tedim Township)

21. トゥアル・ザン村 (Tual Zang village)

(N) 23° 21, 846'

(E) 093° 39, 071'

1, 644 m

インパール作戦後に撤退してきた日本兵（多くが傷病兵）がこの村に分泊していた。



22. トゥアル・ザン村 (Tual Zang village)

(N) 23° 25, 350'

(E) 093° 39, 179'

1, 329 m

高級将校の墓と思われる石碑が残されている。誰も手を付けていない。



23. Mt.Kenedy (ケネディー・ピーク) 山頂付近

(N) 23° 19, 014'

(E) 093° 45, 873'

2, 294 m

日本軍の基地があった。英軍の空爆による死者が放置されたまま。



24. Mt.Kheui Kur (クイックル山頂)

(N) 23° 15, 387'

(E) 093° 46, 489'

2, 475 m

英軍基地を改修した日本軍の基地があった。インパール作戦撤退後の日本軍が英軍との間で交戦。チン州内では最後最大の交戦であった。現地案内に立ちあつた Mr.Nang Khan Dal (53) は、17年前に亡くなった父親（父親は日本軍に従軍していた）の話しを覚えており、英空軍の空爆で多数が死亡。遺体はそのまま放置されたとのこと。父親の話では「日本軍は、この塹壕で生活し、この塹壕で永遠に眠ることになった。日本軍のサカマキさんとイトウさんに良くしてもらった。」とのこと。さらに、付近の村民達が金品目当てに掘り出した際にこの場所で6体のご遺骨を発見し保管していたことが判明した。ご遺骨は現在テディムの捜索隊事務所 (ZDF : Zomi Development Foundation) に保管している。

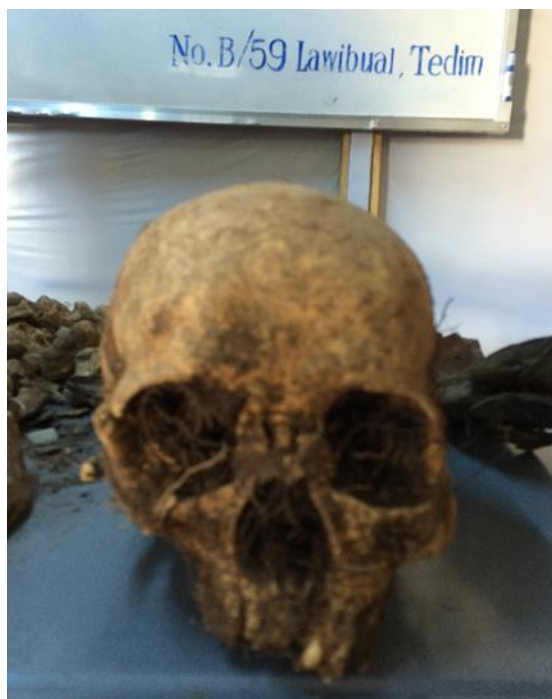


25. フォート・ホワイト山山頂 (Mt.Fort White)

(N) 23° 20, 211'

(E) 093° 54, 052'

日本軍の蝮壺陣地跡に原型を留めた頭蓋骨を発見。現場は乾季に山火事が多発するため消失を恐れてテディムの捜索隊事務所 (ZDF : Zomi Development Foundation) に保管している。



26. ブアン村 (Buan village)、バル・エム・キャンプ (Bal Em camp)

(N) 23° 11, 118'

(E) 090° 40, 453'

1, 920m

バル・エム山頂にある蝮壺陣地跡。日本軍 (弓) 第33連隊「笹原連隊」が構築したと思われる。ここで日本兵のものと思われる頭蓋骨の一部が発見された。発見した村人は、頭蓋骨が野晒しの状態だった上、乾季にはよく山火事が起こるので、消失することを懸念して自宅で保管していた。1945年7月、この地に退却してきた日本軍 (笹原連隊の一部であろう) はしばらくの間この陣地に立て籠もって英軍に反抗していたが、サイ・ザン飛行場を再奪還した英軍が戦闘機による空爆を開始したことで壊滅的な打撃を受け10名ほどの死者を残して退却していったとの話しである。これまでに見つかったのは写真の頭蓋骨だけが、蝮壺陣地の内部を掘り返せば他のご遺骨が発見されるだろう。



27. テイ・ザン村 (Thei Zang village)

(N) 23° 11, 118'

(E) 090° 40, 453'

1, 201 m

日本軍の基地があった。1944年末の英軍との交戦により約10名がこの地で死亡。数名が埋葬された。現在は、ミャンマー政府（農業省）がコーヒー栽培を行っている。この地は旧テディム街道（当時の本道）沿いにある。



28. 上記7の傍。

(N) 23° 12, 599'

(E) 093° 52, 884'

1, 247 m

日本軍の蝸壺陣地（5つの出入り口で繋がっている）があった。英軍との交戦により同陣地の日本兵が死亡。



29. テディム (Tedim)市内

(N) 23° 41, 651'

(E) 093° 31, 411'

1, 633m

日本兵の集団墓地（推定：100名）。すぐ傍に日本軍の臨時野戦病院があり、兵士が亡くなるとここに埋葬された。1974年に数名の日本人が来て発掘したが、金歯と腕時計と飯盒しか掘り出せなかった。しかし、地元の古老等によるとここには多くの兵士が埋葬されたと言う。本格的に発掘すれば多くのご遺骨が出てくるものと思われる。場所は個人の私有地であり、発掘は承諾を得ている。尚、古老等の話によると、日本軍は兵士が亡くなると片腕を切り落として火葬し、その腕の部分だけをご遺骨として持ち帰って行き、その他の胴体はこの集団墓地に埋葬したとのこと。さらに兵士達の片腕部分のご遺骨を持ち帰った日本軍の多くも英軍の攻撃で次々と亡くなっていったので、日本に持ち帰れたかどうかは不明とのこと。



30. テイ・ザン村 (Thei Zang village)

(N) 23° 26, 975'

(E) 094° 06, 824'

上記6とは別の場所、コーヒー園の中に日本軍の蝮壺陣地を発見した。



31. 同村

(N) 23° 12, 600'

(E) 093° 52, 886'

石柱有り。地元民の話によると日本軍が手榴弾等の爆薬を埋設したと言う。



32. 同村

(N) 23° 12, 747'

(E) 093° 52, 875'

上記石柱傍に日本軍の集団埋葬地を発見。数は不明。



33. スア・リム村 (Sua Lim village)

(N) 23° 12, 758'

(E) 093° 52, 865'



(N) 23° 12, 516'

(E) 093° 48, 217'

上記2ヶ所は日本軍蝟壺陣地の両方の入り口をGPSにて記録。英軍の空爆で潰されたため、中に相当数のご遺骨があるものと推測される。



34. ドル・ルワン村 (Dol Luang village)

(N) 23° 20, 201'

(E) 093° 54, 046'

日本軍兵士埋葬地。村民へのインタビューによると約100名の日本兵がこの地の小川沿いに埋葬されたと言う。村民はこの小川を「日本川」と呼んでいる。「中突進隊・作間連隊」と思われる。



【注記】日本軍「弓」第33師団は、カレーミョウからテディムそしてトンザンへという「正面突進隊・八木連隊」の他、カレーミョウ以北の別の2ルートから北部チン州に進軍した「中突進隊・作間連隊」の合計3つのルートがあり、この3つがトンザンで合流してインド・インパールへと進撃している。（さらにカレーミョウからテディムへの道中で「正面突進隊」から「左突進隊・笹原連隊」が分流し、この連隊は別ルートを取ってトンザンからもっと北に位置するシンギャル村で上記3つの本隊に合流している。また、ザガイン管区のタム方面から進撃した「右突進隊・山本支隊」はインド領内のインパール南方で本隊に合流している。）

35. 同村

(N) 23° 20, 359'

(E) 093° 54, 618'

山頂に日本軍の塹壕陣地跡。英軍の空爆により全滅。



36. 同村

(N) 23° 20, 349'

(E) 093° 54, 623'

(N) 23° 20, 317'

(E) 093° 54, 622'

山頂に日本軍の蝮壺陣地跡。英軍の空爆により全滅。中に相当数のご遺骨が眠ったままになったいと推測される。上記2ヶ所のGPS測定は、蝮壺陣地の2ヶ所の入り口を測ったもの。



ザガイン管区ご遺骨調査情報

【カレーミョウ地区】

1. ギ・コン村 (Gyi Kong village)

(N) 23° 21, 871'

(E) 093° 39, 076'

家の建て替えの際に地中から日本軍兵士と思われるご遺骨が出てきた。成田山のお守り等と一緒に出てきた。



2. 同村 (写真無し)

(N) 23° 24, 110'

(E) 094° 04, 898'

日本軍の野戦病院跡地を発見した。付近に埋葬地があるものと推測される。

カヤー（カレニー）州ご遺骨調査情報

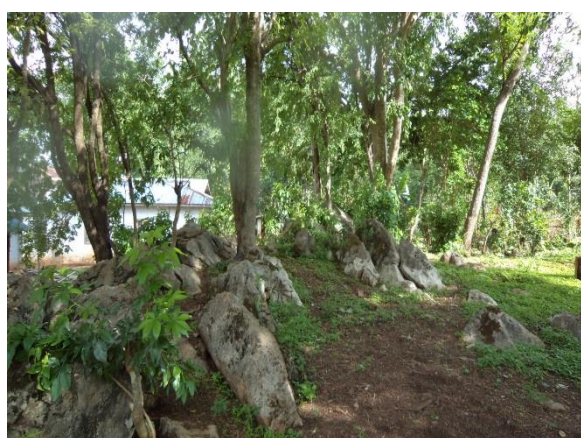
【フルソー地区】（Hpruso Township）

1. 地名 Robuta（ロブタ）、日本軍基地跡、日本兵埋葬地。

北緯（N）19° 24, 600’

東経（E）097° 07, 277’

この一帯にご遺骨が眠っていることは確かだが、特定はできない。付近の井戸には確実に1名の日本兵が眠っている。（英軍側と取っ組み合いをして2人で井戸に落ちた。）以前にご遺骨の調査は行われていない。



2. 州都 Loikaw（ロイコー）近郊

（N）19° 44, 45’

（E）097° 22, 115’

日本兵の墓。現在は畑となっている。



3. エレファント山近郊

(N) 19° 42, 4812'

(E) 097° 06, 413'

日本兵が9名死亡。英軍に味方するパダウン（首長）族によって切り殺されたとのこと。遺体はそのまま放置された。現在は水田になっている。



4. ドブク村（エレファント山近郊）

(N) 19° 38, 602'

(E) 097° 07, 018'

日本兵埋葬地。案内人のリー・レー氏に父親（故人）は日本軍に従軍し、埋葬の係りをしていた。父親の話によるとこの地に相当数のご遺骨が眠っているとのこと。現在は竹藪になっている。



5. エレファント山（男山）山頂にある仏塔

(N) 19° 39, 378'

(E) 097° 05, 644'

仏塔建立の際に日本兵のものと思われるご遺骨が出土したが、そのまま仏塔に納められた。出入り口が無いため発掘は不可能かと思われる。仏塔を壊すしかない。



【デモソー地区】 (Demoso Township)

6. Demoso (デモソー) 地区、テスレ教会

(N) 19° 39, 378'

(E) 097° 05, 644'

教会敷地内に日本軍の野戦病院があった。敷地内からかつてご遺骨が出てきた。



7. Daw Law Khu (ドリャク村) のドリャク池

(N) 19° 29, 580'

(E) 097° 07, 574'

池で2名の日本兵が爆死（魚をとるために手榴弾を投げたところ爆発した）。この2名の墓が同じ場所（池の丘上の畑隅）に埋葬されている。また、同じドリャク池にて1名の日本兵が池に飛び込みそのまま上がってこなかった。水死したものと思われる。現在もその場所に印が残されている。



8. ミヤ・レ村 (Mya Lae village)

(N) 19° 42, 091'

(E) 097° 12, 692'

879m

日本兵1名の墓を発見。地元民によって殺害された。



【ハン・オー地区】（KNPP 実効支配地）

9. ハン・オー村（Han Oh village, Mt.Thiet）

（N） 19° 33, 968’

（E） 096° 54, 107’

1, 564 m

1名の指揮官（大尉との地元情報）を含む合計4体のご遺骨を発見。地元民の話では大尉は重症を負った上、他の3名の部下と共に餓死したとのこと。60丁の銃と一緒に埋葬された。



10. 同村

（N） 19° 33, 967’

（E） 096° 54, 106’

1, 562 m

40名の日本兵が餓死し、ここに埋葬された。



11. ベトゥ村 (Bethu village)

(N) 19° 23, 614'

(E) 096° 53, 391'

1, 269 m

日本兵埋葬地。



【ペ・コン地区】 (Phe Kone Township, Shan state border)

12. ブラボ村 (Blapo village, Phe Kone Township)

(N) 19° 41, 301'

(E) 096° 54, 188'

1,431m

日本軍の大きな基地があった。激戦地となったため、この基地跡には多くのご遺骨があるものと推測される。



アラカン（ヤカイン）州ご遺骨調査情報

【ムレイ・ボーン地区】（Mray Boon Township）

Arakan State (ALP) remains your survey information

1. カム・ダン・スアイ村（Kam Daung Sway village）

(N) 20° 07, 259'

(E) 093° 26, 478'

4 m

(N) 20° 07, 138'

(E) 093° 26, 54'

5 m

日本軍が英軍の戦車部隊に自爆突撃した。この自爆突撃は日本軍の現地主力部隊を撤退させるために敢行された。ご遺骨はこの地に眠ったままになっている。



2. 同村

(N) 20° 07, 379'

(E) 093° 26, 52'

1 m

英軍との激戦地。200から300名の日本軍兵士のご遺骨が眠っている。英国は戦後にご遺骨を持ち帰ったが日本は来っていない。



3. カン・カー・シャン村 (Kant Kawr Shaung village)

(N) 19° 26, 325'

(E) 093° 33, 139'

121 m

6名の日本兵が死亡。手付かずにのまま。



4. 同村

(N) 20° 07, 616'

(E) 093° 27, 108'

8 m

日本軍兵士2名が死亡。



5. 同村

(N) 20° 07, 864'

(E) 093° 27, 416'

78m

日本軍兵士7名が死亡。



6. クラ・アム・タウン村 (Kra Arm Taung village)

(N) 20° 10, 449'

(E) 093° 27, 225'

62m

英軍の空爆により死亡した多数の日本軍兵士が眠ったまま。遺体は放置されたままで村人は壮絶な状況にある同地への立ち入りを禁じている。



7. アー・ヌー村 (Ah Ngu village)

(N) 20° 01, 584'

(E) 093° 22, 650'

17m

大きな湖の傍で英軍と日本軍との激戦があった。日本軍はダタウ丘 (Dataw hill) に陣地を構えていた。20から30機が入り混じっての空中戦もあった。日本軍が敗退した跡にはこの地に多数の日本軍兵士が亡くなっていた。(第2次アキャブ作戦か?)



8. 同村

(N) 20° 01, 838'

(E) 093° 27, 560'

20m

日本軍兵士1名が死亡。



9. ペイ・カウク村 (Pay Kauk village)

(N) 20° 04, 820'

(E) 093° 22, 400'

3 m

タウク・ケイ川 (Thauk Kay River) 河畔にて1名の日本軍兵士が死亡。泥の中に埋まっている。死亡地に支柱の目印有り。



【シットウェー地区】 (Sittway Township)

10. アウン・ダイン村 (Aung Daing village)

(N) 20° 14, 351'

(E) 092° 47, 397'

15m

日本軍兵士1名が死亡。(マンゴーの木。)



11. 同村

GPS 記録、写真無し。

別の日本軍兵士1名の埋葬地有り。

【パウク・タウ地区】 (Pauk Taw Township)

12. ムン・タイ村 (Mun Tay village)

(N) 20° 04, 579'

(E) 092° 56, 353'

26m

日本軍兵士1名が死亡(病死)。



13. サン・ドー・ラン島 (San Daw Run Island)

グルン・シャウン村 (Grun Shaung village)

(N) 20° 03, 696'

(E) 092° 55, 840'

40m

日本軍兵士1名が死亡。他にも有るとのこと。



【カウク・プル地区】 (Kyauk Phru Township)

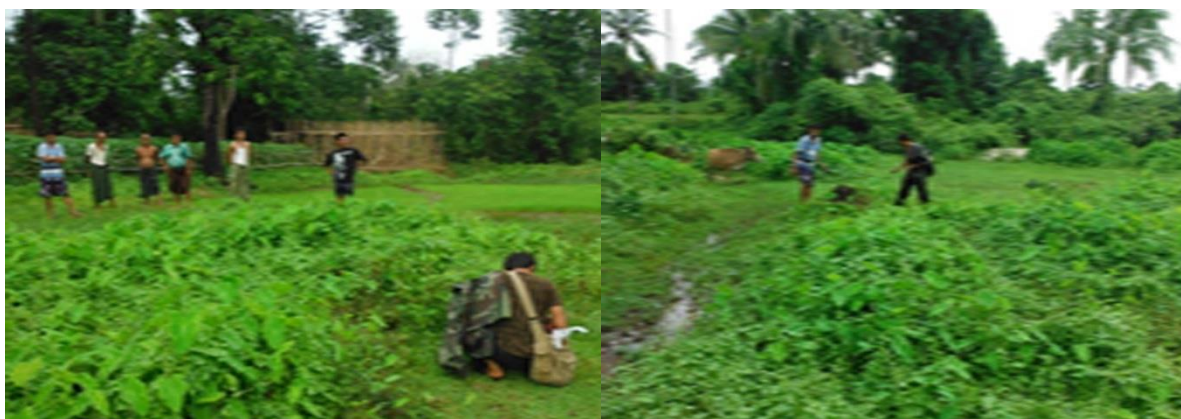
14. オウン・タウ村 (Own Taw village)

(N) 19° 23, 678'

(E) 093° 30, 225'

20m

日本軍兵士2名が死亡。他にも有るとのこと。



15. 同村 (Own Taw village)

(N) 19° 23, 322'

(E) 093° 30, 760'

20m

日本軍兵士3名がこの地で死亡。



16. マラ・ザイ島 (Mara Zai Island)

カレン・タウ村 (Karen Taw village)

(N) 19° 26, 064'

(E) 093° 41, 474'

72m

日本軍兵士1名が死亡。(病死)



17. チョク・タウン・オルン島 (Kyauk Yaung Orun Island)

カーピシャン村 (Karpishaung village)

(N) 19° 29, 019'

(E) 093° 37, 461'

27m

日本軍兵士1名が死亡。



【タウン・コアグ地区】 (Taung Koag Township)

18. サー・プルン村、ゼー・コーン村 (Sar Prun and Zee Kone village)

(N) 19° 07, 780'

(E) 094° 10, 431'

11m

日本軍兵士6名の埋葬地。(自決後、地元民によって埋葬)



19. 同村地域 (写真無し)

(N) 19° 04, 207'

(E) 094° 10, 939'

11m

日本軍兵士2名の埋葬地。

ザガイン管区ご遺骨調査情報

【タム地区】 (Tamu Township)

ナーガ族調査隊。現在、ザガイン管区タム地区を調査中。これまでに入った情報では、タム地区にて合計15ヶ所のご遺骨が眠っていると思われる場所（日本軍「弓」第33師団の「右突進隊・山本支隊」か？）を突き止めたとのこと。電気も電波も届かない為、通信が困難であるが、日本軍「烈」第15師団のレイシー付近やレッド公路周辺の調査を2月一杯行った。しかし、3月19日現在、ナーガ調査隊より報告書作成までには尚時間がかかるとの連絡を受けたため、この報告は4月以後の調査成果に回すこととする。

【総括】

本報告書は2012年12月から2013年3月までの準備期間（日本、タイ、ミャンマーの3カ国での「ご遺骨帰国運動」の立ち上げ、タイ・チェンマイにてUNFCとのMOU締結、2度にわたって行った少数民族調査隊を一堂に集めての調査方法の説明・訓練会の開催）を経、同年4月以後より2015年3月末日までの日本兵ご遺骨調査活動報告である。

本調査活動は、活動当初より困難を極めた。その理由は以下の通りである。

- 1) ご遺骨調査地の多くがカチン州や北部シャン州で引き続く内戦により難航した。
- 2) ミャンマー政府と暫定的停戦合意を結んだカレン族やモン族等の少数民族各派でも（ミャンマー国軍と少数民族武装勢力とが混在する所謂「グレー・ゾーン」地域）戦闘が散発的に発生し、調査隊の安全確保がままならず活動が難航した。
- 3) ミャンマー政府より少数民族勢力との「全土停戦合意」以後であれば調査に協力できる旨を通達され、「全土停戦交渉」（現在も尚継続中である）の成り行きを見守る必要が生じた。
- 4) その後（2014年4月）、ミャンマー政府側との交渉の末、政府側が支配する少数民族地域（所謂「ホワイト・エリア」）であれば調査活動は可能との理解を得ることが出来た。

以上の事由により、活動開始当初は主に少数民族勢力の実効支配地（所謂「ブラック・エリア」）で行うことになった。しかし、いまだに多数のご遺骨が予想されるモン州（新モン州党：NMSP）及びカレン州（カレン民族同盟：KNU）内の泰面鉄道沿線地帯は新モン州党：NMSP及び大小4派のカレン族武装勢力（KNU、DKBA、KNLA/PC、KPDF）が複雑に割拠している為、成果が上がらなかった。この地域は今後の全土停戦を待つより他にない。また、パオ族（パオ民族解放機構：PNLO）及びザヤジー村住民の協力でバゴ管区タングー、ザヤジー村の寺院の境内にある古井戸の中から出てきたご遺骨と日本兵のものと思われる遺留品を発見したが、厚労省による鑑定の結果、すべて動物の骨であると判断されたケー

スもあった。さらに、ラフ族（ラフ民主同盟：LDU）とワ族（ワ民族機構：WNO）については、実効支配地の少なさからご遺骨の発見には繋がらないと判断し、第1回目の調査活動を以って打ち切りとしたが、ワ族（WNO）は同じワ族の最大派閥であるワ州連合軍（UWSA）実効支配地域（シャン州北部一 - 中国国境）での今後の調査活動への協力を考慮している。一方で、アラカン州（アラカン解放戦線：ALP、アラカン民族評議会：ANC）の2調査チーム）及びカヤー州（カレニー州）・カレニー民族進歩党：KNPP）の3つの調査チームのうち、ALP及びKNPPの2つの調査チームは、ミャンマー政府との良好な暫定的停戦合意の下、ブラック・グレー・ホワイトの違いに関係無く比較的安定した調査活動を行うことができた。また、ミャンマー政府に交渉・対話相手とされていないANC（但し、ANCはUNFCのメンバー・グループ）は、むしろその点を利用して同様に比較的安定した調査活動を行える環境を整えた。

その一方、上記4）の事由により、2014年5月より井本勝幸自らが陣頭指揮を取り、北部チン州（ゾーミ開発財団：ZDF）及びザガイン管区（東ナーガ族開発機構：KNDO）の2つの調査チームを率いて現地での調査活動を開始した結果、本報告書に報告する成果を上げることが出来た。本報告書の調査結果は以下の少数民族調査チームによるものである。

1. チン州…ゾーミ族調査隊（ZDF）
2. カレニー（カヤー）州…カレニー族調査隊（KNPP）
3. アラカン（ヤカイン）州…アラカン族調査隊（ALP、ANCの2チーム）

尚、本調査活動に【これまでに参加した民族】（括弧内は州名と担当チームの母体団体名）を上げると、

ゾーミ族（チン州、ZDF）、ナーガ族（ザガイン管区、ENDO）、アラカン族（アラカン州、ALP、ANC）、カレニー族（カレニー州、KNPP）、カレン族（カレン州、KNU）、モン族（モン州、NMSP）、パオ族（シャン州、PNLO）、ワ族（シャン州、WNO）、ラフ族（シャン州、LDU）である。

次に【ご遺骨情報数】であるが、厚労省より指導されている（ご遺骨を）「掘らない」、「扱わない」という条件の下では本調査によっては正確な数字を把握することは出来ない。しかしながら、地元の古老達からのインタビューと調査隊による現地調査によって大まかながら以下の結果を提示するに留めたい。（括弧内は推定最小数）

1. チン州 36ヶ所（推定数：579柱、それ以上）
2. ザガイン管区 2ヶ所（推定数：2柱、それ以上）
3. アラカン州 19ヶ所（推定数：329柱、それ以上）※ALPのみ
4. カレニー州 12ヶ所（推定数：60柱、それ以上）

以上、合計69ヶ所（最小推定数970柱）であるが、集団埋葬地や大規模な陣地跡の柱数は発掘無しには集計不可能であり、複数人からのインタビュー調査結果は最少数（人によって1,000柱と証言する者もいれば、同じ場所で100柱と言う者もいるため、このような場合は100柱として推定した。）を取って勘定した。実際にはこれ以上（本調査による最大推定数は1,890柱～それ以上）のご遺骨が眠っているものと推測される。

次に、現在の状況（2015年3月末）であるが、以上の案件以外で、シャン州インレー湖そばのパコンで約100柱（下の写真）、



さらにカチン州で多数、ヤンゴンで1ヶ所の情報がいずれも個人からの情報として上がっている。また、本報告書内にも注記したが、例えばインパール作戦でチン州に展開した日本軍「弓」第33師団は、カレーミョウからテディムそしてトンザンへという「正面突進隊・八木連隊」の他、カレーミョウ以北の別の2ルートから北部チン州に進軍した「中突進隊・作間連隊」の合計3つのルートがあり、この3つがトンザンで合流してインド・インパールへと進撃している。さらにカレーミョウからテディムへの道中で「正面突進隊」から「左突進隊・笹原連隊」が分流し、この連隊は別ルートを取ってトンザンからもっと北に位置するシンギャル村で上記3つの本隊に合流している。また、ザガイン管区のタム方面から進撃した「右突進隊・山本支隊」はインド領内のインパール南方で本隊に合流している。

これまでの調査は主に「正面突進隊・八木連隊」のルートであり（一部作間連隊や笹原連隊のルートも含まれる。）、ゾーミ族調査隊の話では「中突進隊・作間連隊」や「左突進隊・笹原連隊」のルート上にはまだ多くのご遺骨埋葬地等があると報告されてきた。このように各地域の調査は「探せば探すほど（ご遺骨が）出てくる」状況である。

この他、内戦の続くカチン州、北部シャン州には日本軍「菊部隊」及び「龍部隊」のご遺骨が多数眠ったままになっていることがカチン族（KIO）やパラウン族（PSLF）のグループから連絡が入っている。これ等の地域は「全土停戦」を待つより他に手が無いが、調査を行えば相当数の発見となることは間違い無い。

日本政府はこの度厚労省を筆頭に外務省、防衛省が連携し、ミャンマーにもご遺骨の政府調査団を派遣することとなったが、

1. 日本政府による正式な発掘調査団の調査予定が未定であること。
2. 当方のご遺骨調査隊の人材を使うのが政府の発掘調査に当たり効率的であること。
3. 当活動の調査地域及び新たな地域で尚続々のご遺骨が発見されていること。
4. 全土停戦後には上記未調査地域での調査が可能となること。
5. 今年度は戦後70年という節目に当たるが、当時を知る古老達も高齢化しており、この機会に可能な限り多くの推定地域を洗い出しておくべきこと。

以上の理由により、本年（2015年）3月末を以って本活動（ミャンマー／ビルマご遺骨帰国運動）を終了する予定であったが、日本政府調査団がミャンマーで調査活動を開始するまでの間、本活動を延長することとした。各地で行っている調査は、当時を知る地元の古老達のインタビューを基本としているが、彼等は各地に居住する少数民族であり、少数民族の協力無しには本活動を全うすることはできない。ミャンマー政府は長年にわたる少数民族との対立から彼等を疎んじる傾向にあるが、晴れて日本政府の調査団が入る暁にはミャンマー政府と貴重な情報を提供してきた各少数民族との間を取り持つかたちで平和的且つ効率的に調査・発掘を行い、一日も早いご英霊方のご帰国を願う次第である。言うまでも無く、我々は一民間の活動に過ぎないが、未だに未調査のご遺骨がミャンマーの少数民族地域に多数埋もれている現状の中、こちらの都合で調査を切り上げるべきではなく、帰国を待たれているであろう御英霊及び御遺族の気持ちを優先し、当方としては活動資金が尽き果てるまで最大限の努力を敢行することが後続である我々の御英霊方への最大限の御供養と考えている。

最後に【今後参加を予定している民族】であるが、成果を上げてきているゾーミ族（チン州、ZFD）、ナーガ族（ザガイン管区、ENDO）、アラカン族（アラカン州、ALP、ANC）、カレニー族（カレニー州、KNPP）の他、全土停戦という条件付きながら、シャン族（シャン州、シャン州進歩党：SSPP）、パラウン族（シャン州、パラウン州解放戦線：PSLF）、カチン族（カチン州、カチン独立機構：KIO）、カレン族（カレン州、カレン民族同盟：KNU）、モン族（モン州及びカレン州の一部、新モン州党：NMSP）である。尚、カレン族（カレン州）、モン族（カレン州）は泰緬鉄道沿線の調査を考慮中である。

以上 文責 井本勝幸 拝